

あいさつ 事業の成果をさまざまな形で次の取り組みに

福田 和樹（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長）



シンポジウムの開会に先立ってあいさつした文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長の福田和樹氏は、「プロジェクト最終年度のデ活が伝えたいこと」というシンポジウムのテーマに触れ、「改めて立ち止まり、このようなことを整理するのは大変意義のあること」と述べました。

福田氏は、デ活やデータのデジタル化を巡る政府の動きとして、デジタル庁設置に向けた法改正がなされたことや、内閣府防災担当において国土強靱化新時代の実現に向けたデジタル・防災技術に関するワーキンググループが設けられたことについて言及。「政府全体においてもデジタル化をリードする分野として防災への期待は非常に高く、文部科学省としても、デ活を含む本事業の成果をさまざまな形で次の取り組みにつなげていきたい」との考えを語りました。

また、平井卓也デジタル改革担当大臣の発言にも触れ、最終年度としてデ活の成果を取りまとめていく上で「デジタル化の手段と目的の関係が、どちらが先なのかを、さまざまな立場の方々に理解していただけるような整理ができる」ことの重要性を指摘。シンポジウム参加者に対し、引き続きの協力と支援を求めました。